

2018年度ユニーク卒論

社会 学部

担当教員名	大谷 信介
論文執筆者名	木島 麻並
論文の題 (テーマ)	買い物行動・通院行動を測定する質問文の開発とその可能性
簡単な内容 (概要)	<p>「愛媛・長崎県民生活実態調査」では、1年間で最も多く利用した「食料品を購入した店舗名と支店名」と「病院名と市町村名」を問うことによって、県民の買い物行動・通院行動を測定する実験的試みをした。この論文は、この質問文で県民の生活行動が分析可能なのかを丹念な作業によって明らかにした論文である。まず、「店舗」について回答してくれた人の比率は、94.6%ときわめて高く、その情報を Google 検索によって特定化できた店舗は、回答の 85.2%にのぼった。「病院」では、回答率 87.9%で、特定率は回答の 96.4%であった。この論文では、回答者が記入した回答例を調査票レベルから丹念に吟味するとともに、店舗情報等をエクセル入力していく方法をマニュアル化している。さらにそれらの情報を Google map 経路検索を使うことによって県民の買い物行動・通院行動を分析する方法を示唆している。</p>
推薦の理由	<p>Google 検索を使うと、店舗等の「住所」「郵便番号」だけでなく「休業日」「営業時間」等が検索可能である。それらの情報を、さらに「自宅住所データ」とともに Google map 経路検索をすることによって、店舗までの「道なりの距離」「直線距離」「自動車での所要時間」「徒歩での所要時間」が測定できるのである。この論文では、そうした検索・エクセル入力の方法を詳細にマニュアル化している。</p> <p>論文ではそのデータを使って、店舗等の「正確な住所」と「郵便番号」で検索した場合の誤差について分析が加えられている。結論としては、店舗データで平均 2.2分、「病院データ」で 2.5分という結果で、ほとんど差がないことが示された。この事実は、質問紙調査で「郵便番号」を質問すれば、正確な住所を聞かなくても、ある程度の空間分析が可能になるということを明らかにした点で高く評価できるものである。</p> <p>本論文で整理された方法をさらに応用していけば、愛媛県・長崎県における買い物難民の実態や無医村や地域医療の問題の解明等、政策形成に役立つ調査分析方法に発展していく可能性が期待できる。この論文において行われたとにかく地道で丹念な作業は、今後の調査方法論の発展にとって大きく貢献するものと考えられる。</p>